

組合基本方針 ◎組合の団結と調和

新年ご挨拶

流山工業団地協同組合 理事長 高橋 啓治



新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、穏やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。平素は、組合活動に格別なるご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年末の衆院選において、自公が大勝し、安倍政権が圧倒的な信任を得た結果になりました。アベノミクスの金融緩和、財政出動、成長戦略の三本の矢を更に推進して頂き、大企業や輸出関連企業等だけが恩恵を受けるだけでなく、一般中小企業（内需関連）にも恩恵が波及することを願うものであります。昨年4月から消費税を8%に引き上げた事が予想外の反動減に繋がり、平成27年10月の消費税率10%への引上げを一年半の延期に決定いたしました。先行きの結果は如何にあるのでしょうか？

円安、株高そしてこのところの原油安が日本経済にどのような影響を及ぼすのか定かではありませんが、出来ればデフレからの脱却、景気回復、経済成長等の要因となり、今年こそ好景気と肌で感じる一年であって欲しいと思っています。

又、昨年は10月にマックスプル工業株式会社が商工中金 松戸支店のご紹介により入会されました。新組合員の誕生であります。マックスプル工業(株)は、ウインチ業界では屈指の企業であられ、業績優秀な会社であります。全組合員が心より歓迎申し上げます。一日も早く組合になじみ、協同組合の組織をご理解していただき、組合活動、組合運営にご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げますと共に、乞うご期待です。

商工中金 松戸支店に厚く御礼申し上げます。

私ども流山工業団地は、ご存じの通り「水と緑と太陽」に恵まれた環境豊かな工業団地であります。この立地を活かし、企業経営、組合運営を更に充実させ、地域住民に雇用の場を提供し、地域経済に些かでも貢献し、役割を果たし、組合の発展に結びつけていかなければならないと考えます。

まだまだ厳しい経済環境の中、行政の動向も気掛かりですが、私どもは常に自助努力を怠ることなく協同組合の基本理念であります「相互扶助の精神」、組合の基本方針である「組合の団結と調和」をモットーにご協力を頂戴しながら、各企業の繁栄と組合の発展を期し、皆様方の幸多かれとご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

- 年度方針● 組合基幹事業の確立
後継者の育成
経営の発展、基盤を強化

新年のご挨拶

流山市長 井 崎 義 治



新年明けましておめでとうございます。

流山工業団地協同組合の皆様には、穏やかに初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より市政各般にわたり、格別なるご支援とご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

昨年の経済情勢を振り返りますと、地域経済状況は、依然、厳しい状況にありますが、本年は、デフレからの脱却と経済再生、財政再建の正念場の年であり、確実な経済対策により景気が回復し、地域経済にもその実感が伝わる年であって

ほしいと願っております。

今年は、つくばエクスプレスが開業して10年を迎えます。

この間に、新たな街づくりが進む中、本市の人口は2万人以上増加し、現在では17万2千人を超えるとともに、子育て世代の急増により、市の人口構成も大幅に若返ってまいりました。

このように街が大きく変化する中で、本市が今後もさらなる発展をしていくためには、地域経済を今以上に発展させることが必要であると考えております。

そのためには、地域経済の活力の牽引役であり、雇用に対しても大きな役割を担う、貴組合の皆様がお力を発揮していただくことが、未来の流山の発展につながるものと強く信じており、期待を寄せております。

私も、貴組合の皆様のお力を頂戴しながら、市民に愛される街、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のますますのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



流山商工会議所 会頭 池 森 政 治



新年明けましておめでとうございます。

流山工業団地協同組合の皆様には平素より地域経済発展のため多大なるご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

今年は「この道しかない」と選挙で訴えた経済政策アベノミクスが真価を問われる1年となろうと考えます。大胆な金融緩和・機動的な財政出動・民間活力を引き出す成長戦略の「3本の矢」で円安・株高や企業業績の回復などで一定の成果を上げました。しかし消費税を8%に引き上げた後個人消費が冷え込んだままです。円安による原材料高で苦境に立つ中小企業も多い中ですが、民間の頑張りや活性化のエンジンと位置づけるアベノミクスの基本戦略は妥当だろうと考えます。

また国は小規模企業振興基本法を昨年成立させ、詳細な施策はこれから出て来ると考えます。本会議所と致しましても本年を小規模企業支援元年としてアベノミクス効果を流山市に引き込み、産業振興に寄与するため、役職員一丸となって貢献して参りたいと考えております。どうか会員の皆様方には旧年にも増してご支援ご協力をお願い申し上げます。

本年も組合員皆様にとりまして最良の年でありますようご祈念申し上げます。

組合員 ご紹介 マックスプル工業株式会社

皆様、初めまして。マックスプル工業株式会社小野と申します。

弊社は、ウインチ製造のスペシャリストとして、性能、安全性、耐久性、コンパクト化を追求してまいりました。お陰様で今年、創業40周年を迎える事が出来、また国内シェアも70%と沢山の皆様より支持頂いております。

ウインチの用途は、本当に多種多様です。デパートの壁面や外食産業の店先に、季節ごとに『大売出し』や『ステーキフェア』などの縦長の幕が飾ってあります。それらは<懸垂幕>とって、私共のウインチによって張られています。また、道路脇の街頭や公園の旗掲揚ポールをはじめ、原子力発電所の制御棒の昇降、クリーンルーム内半導体ウェハー研磨装置の昇降、種子島宇宙事業団のH2Aロケット製造ルーム、豪華客船の脱出用ボート昇降、ゴルフ打ちっ放し練習場の防球ネットの昇降、六本木ヒルズアリーナの屋根自動開閉システム、等々色々な場面でマックスプルウインチが活躍しています。



ロックさせる距離は、ワイヤ巻き取りドラムの形状を変化させる事で、簡単にお客様のニーズに合致させる事が出来ます。さらに、縦引き(昇降)・横引き(牽引)・往行(往復牽引)・斜め引きと、360度どの方向からでも動力を伝えられるのがウインチの魅力です。

「何かを動かしたい!」と思った時は。ウインチを動力としてご検討下さい。意外なコストダウンが可能です。

販路拡大を視野に入れ海外販路進出プロジェクトも推し進めています。ヨーロッパ安全基準の指標である『CEマーク』の取得をイギリスの認証機関から受け、さらに品質管理体制の証である

『ISO:9001』の認定を全社大で行いました。1年間で7回の海外展示会に出展しその結果として、東南アジア中心に5カ国6社と代理店契約を締結致しました。

ウインチという機械はレオナルド・ダ・ビンチの発明から脈々と受け継がれ、人々の省力化をお手伝いしてきました。今後も当社では顧客満足の高い商品を提供する事で、社会への貢献をしていきます。

中でも変り種は、南極観測隊が『ドーム富士プロジェクト』で行った深層氷床掘削において、掘削装置およびウインチを開発。氷層下5,000mの氷柱を取り出す事によって過去32万年の地球の気候・環境変動の解明という歴史的なプロジェクトに一役買う事が出来ました。上記の南極用ウインチのように、当社の売上の四割は<特殊ウインチ>が占めています。お客様の作業チャートにベストマッチする、世界でたった一つのお客様専用ウインチを提案します。

ウインチという機械は大変自由度が高い商品です。スト



マックスプル工業株式会社 代表取締役社長 小野 幸一

2014年度 流山工業団地組合忘年会

今年の組合忘年会は12月9日18時より割烹かねきさんで開催されました。会員ほぼ全員の出席でにぎやかに幕を開きました。

実は高橋理事長に対する荣誉ある表彰がありました。経済産業大臣からの組合功労者表彰です。席上でそのことが披露され花束が贈呈されました。

それに関して理事長より銘酒久保田が振る舞われ、会員皆さんがそれを堪能できたりしてまことに和気藹々の忘年会となりました。

世情はアベノミクス効果と言いますが未だ私たち中



小零細企業にはその恩恵が回って来ていると言いかねる状況の中におります。世情は相変わらず厳しい環境の中で、の会社運営が続いている会社が多いのが現況と言えるような気がします。

今年の忘年会は来年2015年に期待を込めての「望年会」であり、ぜひとも各社飛躍の年にならんことを祈る会になりました。

なお一層の団結を深めてがんばりましょう！

栄光産業株式会社 岩佐 恵司

青年部忘年会

株式会社サンオー 大塚 英一



12月17日、柏で青年部忘年会が開かれました。遠藤部長の挨拶から始まり、全員で美味しいお酒と料理を頂きながら、各々活動の振り返りや来年の構想、ゴルフ等の話題等に花を咲かせ、青年部らしく、楽しくおおいに盛り上がりました！

これもひとえに理事長をはじめ、組合活動に携わる全ての皆様のおかげと感謝しております。心よりお礼申し上げます!!

今年は、組合全体会への参加等大きな変化がありました。個人的には、緊張しながらも隔月参加し、

貴重な経験をさせて頂いていると感じております。見通しの立ちにくい、厳しい外部環境の中で、経験豊富な諸先輩方と同席させて頂く機会は、大変有意義な勉強の場と心得ます!!

来年も様々な行事を通して、部員の絆を深め更なる飛躍に繋げていきます。

ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

経済産業大臣表彰 中小企業庁長官表彰

昨年11月25日にANAインターコンチネンタルホテル東京におきまして、中小企業等協同組合法施行65周年及び中小企業団体の組織に関する法律施行55周年記念式典を、全国中小企業団体中央会・都道府県中小企業団体中央会の主催で、宮沢経済産業大臣、村木厚生労働事務次官をはじめとする大勢の来賓の方々にご臨席いただき、開催されました。

記念式典において行われた表彰式で、当組合 高橋理事長が経済産業大臣 組合功労者表彰、当組合が中小企業長官 優良組合表彰を受賞させていただきました。

これも一重に組合員の皆様を始め関係各位のご協力、ご指導をいただいた賜物でございます。書面をお借りし、御礼申し上げご報告とさせていただきます。



野菜工場の見学に関して



12月9日 組合共同施設を活用した新たな事業の創出の可能性を求め、柏にある千葉大学環境健康フィールド科学センターに伺い塚越先生に野菜工場のご説明を頂きました。

工場では、トマトが中心で他にレタス（サラダ菜）の水耕栽培が行われていた。水耕栽培にも湛液流動水耕、培養液薄膜水耕など様々な方式があり、巷やメディアでは非常に取り組みやすく、可能性の高い事業分野であるように取り上げられている。そういった情報に伴い、工業団地での新たな共同事業分野として期待を持って見学しました。

結論から申し上げるに、本当の農業と同様に知識と経験、立ち上がるまでの時間、コストなど多くの要素を必要としており、甘い世界ではなく可能性が低いことが理解できました。

日本において植物工場が拡大していかない理由として、肥沃で農業に適した大地が豊富に存在すること。さらに電力、エネルギーなどランニングコストが高いこと。これらの理由で製造する野菜は相対的に高価な食品になってしまう点である。

ただし電力と栽培環境と人材を整えれば、天候や気温、季節などに影響されることなく、常に計画的に安定した供給を提供できるという強いメリットも存在する。さらに研究により、ライト色や当て方により植物の栄養価も変化させることができるという強みもある。それらの強みを生かすことのできる消費者、客先を見つけることが野菜工場が生きる道であると考えます。日本の農業人口等を考えると期待の分野でもあり、これからの成長を期待したい。

有限会社 長浦製作所 長浦謙太郎

組合ゴルフコンペの開催

11月8日、ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎において恒例のゴルフコンペを行いました。

すみません…私が優勝させていただきました。しかもベスグロで…。

ゴルフは[上り坂]の若手も、体力的に[下り坂]の諸先輩方にも優勝のチャンスがあるスポーツですが、私の場合は[まさか]の優勝です。

どういう訳か参加された方々から、「恥ずかしいからスコアは公表しないで！」と懇願されました。次はいつこの記事を書くことになるのか皆目、見当もつきませんが次回も楽しみにしております。

株式会社 初石板金 熊本 匡史

ボウリング大会開催

平成26年10月10日（金）午後7時より南柏ヤングボウルにおいて、第22回ボウリング大会を15チーム60名に参加していただき、開催しました。

成績は、

団体 優勝 栄光産業株式会社 Aチーム

2位 サンコーテクノ株式会社 Aチーム

3位 株式会社サンオー Aチーム

個人 優勝 酒井 悟氏 [サンコーテクノ株式会社 Aチーム]

2位 有賀 聖氏 [栄光産業株式会社 Aチーム]

3位 海老原 正美氏 [株式会社サンオー Aチーム]

でした。

総合優勝は『栄光産業Aチームです！』……えっ？自分達が優勝？！耳を疑った瞬間でした。

ここ数年、理事長杯ボウリング大会は1,200点前後が優勝ラインだったので、チームのノルマは1人2ゲームで300点、4人で1,200点取れるメンバーをAチームとして優勝を

目指し大会に臨みました。安定感抜群の有賀さん、女性個人で2位になった事のある中村さん、マイボール・マイシューズを持っている祐司さん、そしてオールラウンドプレイヤー キャプテン後藤。しかし、試合前に「絶対優勝！」と、プレッシャーをかけ過ぎてしまったせいも、結果は散々で1,015点。目標の点数には遠く及びませんでした。表彰式が始まり、個人の部では8人中3人がとび賞等の商品をいただくことが出来ました。優勝は諦めていたので、チーム名が呼ばれた時、本当に信じられない気持ちでした。ボウリングの神様が降りてきた瞬間です。来年はプレッシャーをかけ過ぎず、楽しく大会に臨み、連覇を狙いたいと思います。



栄光産業株式会社 後藤 将司

編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、全国を通して異常気象が目立つ年となりました。

流山でも2月初めに何度か雪が降り、私自身痛い目を見ました。

関東地方では積雪の重みによる施設の倒壊や中央自動車道の長期間通行止め等、雪に対する弱さが露呈される形となりました。

現場では、「段取り9割 実働1割」という言葉を良く耳にします。作業における準備、前段階の重要性を謳う言葉だと考えます。天候でも仕事でもいつ何が起こっても対応出来るように今年の干支「未」の毛ようにしっかり備えて、実り多い一年になるようにしていきたいです。

目下のところの備えで、車を使用する方はスタッドレスタイヤの山が残っていてもゴムが劣化していたら交換して下さい。チェーンもあると心強いです。

事故は起こさないようにお気を付け下さい。

最後になりますが、本年度も流山工業団地ニュースをよろしくお願い致します。

長浦 匡成

流山工業団地協同組合

編集・発行：青年部

〒270-0107 流山市西深井 1028-46

電話 04 (7153) 3001